

I 職員自己評価について

1 回収率

星置校舎	小学部	94% (45/48)	中学部	96% (27/28)
	訪問教育部	100% (6/6)		
紅葉山校舎	小学部	100% (12/12)	中学部	100% (7/7)
寄宿舎		100% (16/16)		
事務部		86% (6/7)		

2 基本的なおさえ

今年度の職員自己評価については、昨年度に引き続き、設問内容を学校経営方針とリンクさせ、次年度の学校経営計画等に生かすという目的で実施した。

3 評価結果

学校評価（職員用自己評価）集約 参照

4 分析

(1) 今年度の重点教育目標・経営目標（短期目標）について

ア 評価ポイントの高い項目

4 児童生徒の人権に配慮した呼称、態度、言葉遣いの徹底

評価ポイント 3.2

A（達成、以下省略） B（おおむね達成、以下省略）の割合 94%

イ 評価ポイントの低い項目

5 働き方改革を意識した業務の効率化と教材研究時間の確保

評価ポイント 2.6

A（達成、以下省略） B（おおむね達成、以下省略）の割合 48%

ウ 昨年度からの変化

評価項目（2：3つの柱／4：呼称、態度、言葉遣い／5：働き方改革）を大きく変更したため比較できないが、類似した項目では、

3 地域資源の把握と有効活用の在り方の検討

評価ポイント 2.9（H30年度） → 2.8（R元年度）

ABの割合 79%（H30年度） → 68%（R元年度）

エ 分析

・「5 働き方改革を意識した業務の効率化と教材研究時間の確保」については、C（あまり達成できていない、以下省略） D（達成できていない、以下省略）の割合が54%となっており、特に「1 授業改善」、「2 3つの柱」、「3 地域資源」、「6 研究・研修」の結果に少なからず影響を及ぼしていると考えられる。

オ 改善の方策等

- ・業務の効率化について、年度末反省も勘案し、新年度に向けた具体案を提案する。（校内人事、年度末反省の検討結果）
- ・地域資源の有効活用について、これまでの地域が関係する学習活動の意義を3つの柱や目指す児童生徒の姿から捉えることで、学習内容をより充実したものにする。

(2) 経営ビジョンにおける教育方針・経営方針（中期目標）について

ア 評価ポイントの高い項目

20 教育公務員としてあらゆる人権侵害・差別のない社会の実現に寄与するという自覚と責任をもち、服務規律の遵守に努める。

評価ポイント 3.5

A、Bの割合 98%

10 「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」を基に個別の課題を明確にした指導・支援の充実に努める。

評価ポイント 3.3

A、Bの割合 95%

イ 評価ポイントの低い項目

15 保護者や地域等と連携した教育活動を推進し、特別支援教育のセンター的機能を発揮して、地域に貢献し、地域とともに歩む学校づくりに努める。

評価ポイント 2.9

A、Bの割合 81%

ウ 昨年度からの変化

評価項目変更したため比較できないが、類似した項目では、大きな変化はなかった。

エ 分析

- ・「15 地域とともに歩む学校づくり」を除くと、全ての評価ポイントが3以上となっている。
- ・「15 地域とともに歩む学校づくり」、「16 自己研鑽」、「19 チーム力、ワークライフ・バランス」については、他の項目と比べて、C、Dの割合が多い（19%）
- ・（1）と関連した項目で、課題を感じている職員が多いと考えられる。

オ 改善の方策等

- ・研究部や教務部と連携し、新学習指導要領を踏まえた教育課程、授業の改善充実に取り組む。また、学部や学年、ブロックの経営が、本校の目指す児童生徒の姿を具現化するようにする。
- ・校内組織、個々の役割について、より分かりやすく周知する。
- ・体罰の根絶にむけた取り組みの継続、指導場面における不適切な発言や態度などの改善はもとより、集会や職員会議、グループセッションによる管理職からの指導を継続する。

(3) 次年度以降の学校経営方針にむけた意見等への回答について

ア 年度末反省の反省集約後の進め方について、今年度急遽、経営会議で課題を整理調整し、各部署で検討、3月に臨時の職員会議をもち、検討結果を全体に報告することとしました。この報告を各部署で新年度計画に反映することとしています。（次年度については、このような流れを年間行事予定に組み込むようにします→総務部）また、反映した箇所については、下線等で分かるようにしておき、進捗状況について、次年度の経営会議で確認していきたいと考えています。

イ 年度末反省の意見集約について、年度末まで待たなくても改善できそうなことがあるように感じています。年度末反省は、1年という大きなスパンで見たときの成果や課題を検討する場とし、年度の途中で出てくる様々な不具合については、経営会議または、学年会やCCM、学部会、分掌部会等から各関係部署、または直接管理職というルートで対応できないでしょうか。

ウ 学校評価については、学校経営方針に反映し、反映箇所が分かるように説明します。

エ 学部間、学年間の学習の継続性、各教科等の系統性など、様々な「つながり」は、児童生徒の学びの効率化はもちろんのこと、業務の効率化にもつながることであると考えます。教務部や研究部、教育課程検討委員会と連携し、年間指導計画の紙面上での視覚化と公開授業（週間）の再考、教科等担当者会議の内容検討等、今あるものをひと工夫することを考えていきます。

オ 校内組織を具体的に示すとともに、校内人事に係る要望、意見等については、令和元年度児童

生徒数の見通しに基づいた教職員 定数を算出し、チーム力を活かせる編成になるように努めます。

カ 危機管理については、防災に係る分掌部や委員会、事務部等と検討します。

II 保護者アンケート（星置校舎、石狩紅葉山校舎小学部、中学部）

1 回収率

星置校舎	小学部	86% (66/77)	中学部	83% (45/54)
	訪育部	44% (7/16)		
紅葉山校舎	小学部	100% (22/22)	中学部	100% (15/15)

2 基本的なおさえ

保護者への学校評価（アンケート）の実施及び結果の公表により、本校教育活動への理解と協力を得て、保護者と学校が連携した学校づくりを進めることを目的とする。また、保護者アンケートの質問内容については、経年での変化等を把握するため、昨年度と同様に設定した。

3 評価結果

学校評価（保護者アンケート）集約 参照

4 分析

（1）学校教育目標について

1 学校教育目標、経営方針、重点目標にそった教育活動を具体的に展開している。

ア 評価ポイント

3.5（H30年度） → 3.7（R元年度）

A（達成、以下省略） B（おおむね達成、以下省略）の割合

98%（H30年度） → 100%（R元年度）

イ 分析

昨年度に比べて、評価ポイントは増加している。C、Dの回答はないが、未回答が11ある。「学校教育目標、経営方針、重点目標」が分からないことによる未回答の可能性もあるため、より具体的かつ丁寧な説明、周知方法の工夫に努める。

（2）学習指導・生徒指導・進路指導

ア 評価ポイントの高い項目

5 交流及び共同学習や校外学習など地域資源を積極的に活用した教育活動を行っている。

評価ポイントの変化 3.7（H30年度） → 3.8（R元年度）

A、Bの割合 98%（H30年度） → 99%（R元年度）

イ 分析

・どの評価に項目においても高評価をいただいている。一方、C並びD評価及び未回答数が8～12あることから、一層の教育の充実とともに、説明責任を果たしていく必要がある。

（3）情報提供・連携について

ア 評価ポイントの高い項目

9 児童生徒の充実した教育のために、保護者と信頼関係を築きながら連携を図っている。

評価ポイントの変化 3.7（H30年度） → 3.7（R元年度）

A、Bの割合 96%（H30年度） → 98%（R元年度）

イ 分析

・どの評価に項目においても高評価をいただいている。一方、「10 児童生徒のために、地域社会や関係機関と連携して教育活動を進めている」については、C、Dの回答が11、未回答が13となっているなど、他の項目でも、C並びD評価及び未回答数が9～13あることから、積極的な情報発信

に努める。

(4) 寄宿舎の運営

11 寄宿舎生一人一人の実態に応じた生活指導の充実を図っている。

評価ポイントの変化 3.7 (H30年度) → 3.5 (R元年度)

A、Bの割合については、寄宿舎を利用している児童生徒が少なく、全体比としての根拠に欠けるため計上しない。

(5) 自由記述に対する回答

ア 施設設備に関すること（小学部トイレ、中学部の教室数、給食の厨房、校舎全体、電話回線）について

→昨年度と今年度に星置小学部校舎と寄宿舎の大規模改修工事を行いました。築40年であることから、外壁や屋上の修繕（雨漏り解消）、ボイラーや給湯、水道ポンプ、配管の更新等、寄宿舎については、トイレや脱衣所、乾燥機、暖房の修繕等、外からは見えにくい場所の整備も多くありますが、建物の根幹を成す部分の修繕となっています。

また、昨年11月からは、全職員で学校予算を効率的に使うことに取り組み、少しでも教育環境の整備に予算を使えるよう考えています。

今回、御意見のあった箇所の修繕には、学校予算で対応することは難しいため、状況に応じて道教委に要望をしていきますが、今後も、児童生徒が安全によりよく学べる校舎環境の整備に取り組んでいきます。

イ 年間行事、学習の実施時期や時間に関すること（登校時刻、プール学習、家庭訪問・懇談、支援会議 等）

→両校舎の全学年の状況、日常の学習とのつながりや、事前事後も含めて行事が重ならないよう配慮しながら、毎年度検討し、児童生徒にとって最適な時期を選定しています。

また、職員の勤務時間が8:30~17:00を基本としており、児童生徒の学習に関することはもちろんのこと、指導に必要な様々な準備、打合せもこの時間の中で行うこととしています。

緊急なことや特別な事情があれば、事前に担任に相談いただき、対応について検討したいと考えます。

ウ 災害対応に関すること（保護者迎いの訓練）

→地域と連携しながら、できる限り実際に近い状況で訓練できるよう計画しています。全校で授業時間内に実施することを前提としながら、総合的に検討、計画していきます。

エ ホームページに関すること

→教育活動の発信の場として、大変便利なものですが、個人情報の関係や不特定多数の方の閲覧による危機管理上の問題から、日々の様子は連絡帳、学年の学習の様子は学年便りに掲載し、ホームページでは、主な行事の様子が保護者以外の方にも分かるように掲載していきます。

オ 職員の姿勢（挨拶、引継ぎ、乱暴、協力、好き嫌い、指導方法、指導の温度差、保護者との共有）

→これらのことを真摯に受け止め、保護者に不安を与えず、根拠のある指導に取り組んでいきます。

